

昭和51年度貸し付け実績一覧表

(単位 千円)

月別	種類 件数・金額		一 般		住 宅		大 学		災 害		医 療		合 計	
	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額
4	51	14,310	99	322,600	69	20,700	—	—	—	—	—	—	219	357,610
5	66	19,430	44	177,900	16	4,800	—	—	—	—	—	—	126	202,130
6	63	18,140	63	205,900	20	5,950	—	—	—	—	—	—	146	229,990
7	69	20,400	94	416,600	—	—	—	—	—	2	800	—	165	437,800
8	49	14,000	82	354,200	1	300	—	—	—	—	—	—	132	368,500
9	54	15,750	85	327,500	—	—	—	—	—	1	400	—	140	343,650
10	96	27,950	105	378,600	—	—	—	—	—	—	—	—	201	406,550
11	101	29,550	78	276,600	—	—	—	—	—	1	400	—	180	306,550
12	52	15,400	80	308,800	1	300	—	—	—	—	—	—	133	324,500
1	46	13,500	82	308,150	3	900	—	—	—	—	—	—	131	322,550
2	88	25,300	165	611,550	9	2,700	2	1,000	—	—	—	—	264	640,550
3	90	26,400	149	593,700	129	38,450	—	—	—	—	—	—	368	658,550
合 計	825	240,130	1,126	4,282,100	248	74,100	2	1,000	4	1,600	—	—	2,205	4,598,930
割 合 (%)	5.22		93.11		1.61		0.02		0.04		10.0			

(2) 住宅貸し付けについて

住宅貸し付けの使用目的別貸し付け状況は、下表のとおりである。

昭和51年度目的別住宅貸し付け状況一覧表

(単位 千円)

事由別 件数・金額	新 築		敷地購入		増・改 築		修 理		土地付き住宅購入		合 計	
	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額
	499	2,073,550	169	668,000	349	1,264,650	61	80,400	48	195,500	1,126	4,282,100
割合 (%)	49.0%		16.0%		30.0%		0.2%		4.8%		100%	

9 共済組合保養施設

公立学校共済組合飯坂保養所(あづま荘)は、新宿泊施設として、オープン以来7年を経過するにいたった。従って、当年度における管理運営については、施設設備の面で、更新または修繕の必要が従来に比し多くなったほか、7月1日から適用のビル管法の実施や、その他関係法令上から改善を要することも発生し、これらの経費負担増と相俟って、経常経費においても、光熱給水費特に、水道、ガス料金、重油代の値上りなど、歳出面のより増大が余儀なくされた。その主なる具体的事項は、まず営業面では、宿泊客室広縁のジュータンの張替え、同室テーブル、布団等の更新を始め、ふすまの張替え、畳の表替え、照明の改善、調理室の冷蔵庫の全面更新、洗浄機の新設などの実施である。次にビル管理法施行にともない、建築物環境衛生管理者の設置、施設内こん虫駆除、受水槽高架水槽の清掃のための専門会社への委託作業の実施、その他の法令適用では、ボイラー室に煤煙濃度測定器の新設及び道路上設置の気中高圧開閉器の当敷地内への移転工事、法令外の整備としては、引湯用モーター、浴場関係配電盤、同蒸気主管の更新、汚水排出管の修繕工事等、多大の条件整備を図った。また屋外環境整備としては、庭園の整備を図った。

た。一方当所の利用者実績状況については県教育庁を始め県内教育機関及び関係諸団体等の経費抑制による会議やこれに伴う宴会などの利用が減少したうえ、組合員等一般についても、鉄道賃や諸物価の値上がりなどによるインフレ不況ムードは、旅行にプレーキがかかり、収入の主体である宿泊利用率を低下させ、前年度より約4%も落ち込んだ実績となった。加えて、福島市周辺の婚礼者数の減少が影響して、その利用組数においても28組にとどまり、前年度に比して7組の減少をみた。さらに、前年度黒字決算をみた実績から、宿泊利用料金を始め、会議室利用料、休憩料等基本料金を据い置いたことや、団体の大型化利用が減少し、小グループ型利用となるほか、マイカー使用の利用客型に変わったためか、飲食等の売上げが減少する一方売店売上げも伸びず、消費単価も期待どおりゆかず、支出増に対して、収入額が比例せず、本年度は終始苦しい経営を続け、収支決算においては、再度赤字のやむない結果に終わった。その利用状況並びに収支決算の概要を示せば、次のとおりである。

(1) 利用状況

① 宿 泊

ア 年間宿泊可能人員	36,500人
イ 年間宿泊実人員	22,865人